

クルマ業界に
新風を!

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオビニオンを直球で発信し世相を斬る「オレの話を聞け!」。第26回は、クルマ業界の若返りと新陳代謝を促す取り組み「NCG」について。高齢化が進み動脈硬化気味なクルマ業界を憂慮し、新しい力を呼びこむためのプロジェクトを語る。

TEXT●太田哲也 (Tetsuya Ota)

PHOTO●服部真哉 (Shinya Hattori)

ATO

太田哲也の
オレの話を聞け!

NCGプロジェクト

先日行われたJAA輸入車試乗会に2人の大学生を連れて行った。NCG(ネクストカージェネレーション) 大学生プロジェクトのメンバーである。NCGとはクルマ好きの学生とクルマ業界をつなげるためのプロジェクトで、オレはその顧問を務めている。メンバーはクルマが好きな現役学生で構成され、試乗会や自動車関連イベントに参加したり、自動車業界で働くプロフェッショナルに取材して業界人と学生が出会う場を提供することを目的とする。これまでにもモータージャーナリストやクルマ雑誌編集者、メーカー広報などに話を聞き、そして学生ジャーナリストとしてレポートをNCGウェブサイトで公開してきた。

実際にボクたちはクルマ好きなのに、そうした言葉がボクらを排除するようにも思えるし。だから若者目線でクルマの楽しさや業界の本音を伝えていきたいです」と。

オレは今の若者は世の中がいくらクルマ離れしていないと思っている。実際にオレの周りに集まってくる若者はクルマ好きが多いし、それに動くモノや乗り物に興味を抱くのは人間のDNAだから、そう簡単になくならないはずだ

ただ面白いクルマに触れる機会が減ってしまったのは事実だろう。子どもの頃は漠然と乗り物に興味があったとしても、周りはミニバンやエコーカーなどばかりで、道具としては優秀だが楽しいクルマに触れる機会がなく育ち、大学生になる頃にはすっかり関心を持たなくなってしまう。そんな若者も増えてきた。

その流れを変えたい。そんな気持ちでNCGをスタートさせようと思った。ただ主役はもちろん彼らだ。

若い感性の発掘

NCG設立と平行して、オレ自身、ずっと考えてきたことがある。クルマ好きの若者はともかく、最近の流れに乗りクルマ好きにならずに育ってしまった大学生を、どうやったらクルマ好きにできるだろうか。興味のない若者をクルマ好きに変える仕組みも作りた。

そう思っていたところで今回チャンスが到来した。うちの会社ではインターンを採用しているのだが、こ

れまで応募してきた学生はもとからクルマ好きが多かった。ところが昨年、クルマに関心がなく免許も持っていない18歳の横浜の公立大学生が応募してきたのだ。中高時代はバスケット部のキャプテンで、でも自分の思うように部員を引っ張っていただけなかったジレンマを感じ、大学でバスケットをやるとインターンを経験しリーダーシップ能力を磨いて、起業の足掛かりにしたい。そんな考えを持ってうちの会社を選んできた。

体育会系だったのだが、そこは

はり最近の大学生っぽくてテンション低目で「あーん」とか返事する。間延びした兵庫弁で、最初のうちは「挨拶は大きい声で、発表ははきはき」と上司に注意されまくっていたが、VWのWEBを担当させて4カ月が経つたら見違えてきた。そこでJAAに連れて行ったら、自主的にインタビューをして積極的に取材活動をしていた。

例えばメルセデスのBクラスに関しては「肉食獣のような顔をしていました。Bクラスのイメージを一新するモデルでした。今までBクラスは消極的な選び方をされてきたのですが、デザインを一新させて「Bクラスかっこいい。ペッツをかうならBクラスがいい」と積極的に選んでらおうという考えです。実際に



NCGのメンバーを連れてJAA試乗会に参加。当日は生憎の雨で試乗会としては最悪なシチュエーションだったが、アヴェンタドールを前にして個性的な造形や随所に施されたカーボンパーツの使い方を食い入るように見ていた。スリッピーな路面状況だからこそ太田哲也氏のドリフト走行も体験でき、普段ではなかなかできないクルマ体験に感嘆を新たにしていただ。



若者らしい行動力がNCGメンバーの特徴でもある。JAIA試乗会ではフォルクスワーゲンの丸田広一郎部長に会場インタビュー。ゴルフの移り変わりやフォルクスワーゲンがこれからの担う若者たちに何を望むか?などをエネルギーに尋ねていた。その旺盛な熱意はメルセデス・ベンツ広報部の崎田さんへのインタビューでも発揮されていた。

そういうユーザーが増えてきたそうです」とレポートしていた。

「数カ月前にはクルマの車種も分からず免許さえ持っていなかったことを考えると、なかなかのレポートではないか。「免許を取ったらゴルフGTIを買いたい」そうだ。クルマ好きの若者をひとり作る事ができたと自負している。

活動のきっかけ

NCGを始めたきっかけは2年前ほど前のモータージャーナリストの集まりでのこと。議長から議題を提案しろと言われたオレは「同業者に若者がいないので、そろそろ会として若手を育てたらどうでしょう」と提案してみた。この業界は若手といっても40代という状況で、やがて人通りのないシャッター街のようになってしまふことを憂慮している。若手が育たない一因として、知名度や実績がないと試乗会に呼んでもらえない

若者を輝かせたい

「自分を輝かせる」という点では、オレの場合は20代ではレースドライバー、30代はモータージャーナリスト兼レースドライバーとしてさんざんやってきた。これからはプロデュースする側に回るべきだと考えている。ただ元来の性格としてめんどくさがり屋で自分が前面に立ちたくない。「個人でやれ」といわれても困ってしまうのである。

しかしうちの会社でインターンやアルバイトを希望する若者が増えてい

い、クルマについて書く者が実車に乗ることがないので説得力がない、という堂々巡りだ。それで若手を試乗会に連れていく仕組みを作りたいと考えたのだ。ところが議長から「それは会としてやることではないので、太田さん個人としてやってください」と言われてしまい、議題にすらあげてもらえなかった。

あとで指摘されたのだが、モータージャーナリストの中には競争相手が増えたら困ると考える人もいるそう。その気持ちはわからないでもないが、例えば商店街は多くの店が集まってこそ繁盛するもので、店が減って競合がなくなったら人通りもなくなるもの。このままではクルマ愛好家が社会でマイナーな存在となってしまうのではないかと心配だ。



NCGの活動は始まったばかりだが、様々な試乗会に参加して自分なりの感性でインプレッション記事を作成したり、モータージャーナリストに積極的に話を聞くなどフットワークの軽さが光る。NCGの活動は、webサイト(<http://nccg.sportsdriving.jp>)で公開中。



我々に返ってくるはずだから。例えばJAIAの取材に関しては、翌日に学生が取材のお礼のメールをしたから、早速来年のJAIAでは学生向けの試乗会を検討してもらえという返事をいただいたそうだ。ありがたいことだ。

NCGの可能性

人には自分が好きなものを他人に教えたいという気持ちがあるものだ。ただそれを若者に伝える手段が今までなかった。

今後試乗会などにも連れて行くつもりだ。業界で働く面白さにも気付かせたいと思う。

また大学の自動車部員も、現役のときはあんなにクルマ生活に没頭しただのに卒業後には業界を選ばないものが多い。彼らにはサーキットを走るなどの機会を与え、運転技術を磨き、業界で活躍できるチャンスも与えたいと考えている。

こうした活動は、メーカーやメディアにもサポートをお願いしたい。さらなる理解者が増えることも願っている。業界のみならず、若者たちを支援しましょう。きっとそれは

以前、フェラーリに乗って中学校の出張授業にいったら、子どもたちが「フェラーリが動いている!」と喜んでくれた。彼らにとってフェラーリはショールームに飾られているもので、身近ではなかったのだ。子どもたちにはもっと楽しいクルマの夢を見せる機会を作ってあげよう。

GENROO読者もぜひ愛車を車庫にしまっておかず、春になったら乗る機会を増やして子どもたちが見る機会を提供してあげてほしい。

彼らの関心がクルマに向くことは、新しい感覚のクルマが出てくることにもつながるわけで、ひとりのクルマ好きとしても期待する。

ドライビングレクチャー&レッスンを続々と開催!

- ①3/29(日)プロドライバーが教えるドライビングレクチャーを都内で開催。
プロドライバーならではの一般道でも使えるテクニック満載の座学セミナーとなる。開催関連なので申し込みは事務局まで(☎045-948-5540)
- ②4/11(土)袖ヶ浦でTetsuya OTA ENJOY&SAFETY DRIVING LESSON開催
「正しい運転を楽しむ」をテーマとしたドライビングレッスンを太田哲也氏を校長に迎えて開催。今回は教習車として、マセラティ専務の協力によりギブリとグラントゥーリスモ、また、フィアット/アルファロメオ校舎の協力によりアルファ4CとジュリエッタQV-TCTが登場予定。詳細はウェブにて。<http://www.sportsdriving.jp>

